

2020年度
入学試験問題(一般入試)

国 語

2月11日実施

受験番号	氏 名

中村高等学校

問題は次のページからです。

一 次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書きなさい。

- (1) 体裁を整える。
- (2) 芸道に精進する。
- (3) 車の通行を妨げる。
- (4) 市民の要求を拒む。
- (5) 穏やかな風が吹く。

二 次の各文の——を付けたカタカナの部分に当てる漢字を楷書で書きなさい。

- (1) ヨウイに解ける問題。
- (2) シンチヨウに行動する。
- (3) メンミツな計画を立てる。
- (4) 冬のキビしい寒さ。
- (5) ボートが波でユれる。

三 次の1、2、3の和歌から、歴史的仮名遣いで書かれて

いる単語を全部で五つ抜き出し、現代仮名遣いに直して平仮名で書きなさい。

1. ひとはいさ ころもしらず ふるさとは
はなぞむかしの かにほひける
2. わすれじの ゆくすゑまでは かたければ
けふをかぎりの いのちもがな
3. ちはやぶる かみよもきかず たつたがは
からくれなるに みずくるとは

四 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

文章I

地球が誕生したときの大気の主成分は窒素と二酸化炭素でした。二酸化炭素はその後、地殻や海に固定されて減少し、光合成植物の出現によってさらに減少して、人間が誕生したところには最小レベル〇・〇三%以下になっていたと推測されます。ここまでは自然現象として二酸化炭素が減少しています。

人類が誕生し、火の使用を発明し、農耕文明が形成された一万年前から二酸化炭素の濃度は減少から増加に転じます。はじめ、その割合はきわめてゆっくりとしており、温暖化の程度も一万年で一℃上昇するといふものでした。ところが、一八世紀に化石燃料をエネルギー源として利用するようになってから、二酸化炭素濃度は急激に増加しています。そして二酸化炭素の増加によって引き起こされる温暖化の被害が無視できないということがわかってきました。このままでは、A という認識が広まってきています。

15

10

石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料は、人類が誕生するずっと以前に地球上に存在していた植物、つまり、大気中の二酸化炭素を光合成で固定してできた有機物が地中で長い時間をかけて分解してできたものです。これを掘り出して短時間で使おうとする人間の行為が温暖化ガス増加の原因であり、地球規模の環境破壊という結果を引き起こしているのです。

環境汚染には「地球」規模のものと「地域」規模のものがあります。

25

地域規模の汚染は公害と呼ばれるもので、工場や自動車が出す排ガスの排出などに含まれる有害物質がその地域に住む人の健康をおびやかす死に至らしめることもあるものです。

日本では、水俣病みなまた(熊本県及び新潟県)、イタイイタイ病(富山県)、四日市ぜんそくよっかいち(三重県)がその代表的なもので、一九六〇年代に大きな社会問題となりました。こうした公害は今ではずいぶん改善されました。一九七〇年のいわゆる公害国会で「公害対策基本法」にもとづく、一四の法律が制定され、工場等が排ガス処理や排水処理を行ない、排出基準を守るようになったからです。もちろん公害が完全になくなったわけではありません。ごみ焼却工場からダイ

35

オキシシンが発生している問題、建築物に使われているアスベストの被害などが生じており、今後もなくならないとは思いますが、一九六〇年代のような大きな公害問題はもう日本では起こることはないでしょう。

しかし、^③発展途上国では、こんにちでも環境汚染は深刻です。昨年、私は仕事の関係で中国のある地方都市に行きました。中国の経済発展はいちじるしく、空港、道路、建物などは一〇年前と比べて見違えるようにきれいになっていきますが、空気はスモッグでどんよりとくもっていて、一九六〇年代の日本の工業都市の印象と重なりました。しかし、こうした地域規模の環境汚染は、経済の発展にともなうて発生し、経済力が蓄積されてくるにつれてしだいに問題として顕在化するというプロセスをへて、やがて解決していくでしょう。^④一人間は解決できるものだけを問題にする」からです。

さて、地球規模での環境汚染の話に入りましょう。代表的なものは、^⑤大気中の二酸化炭素が増加し、地球の温度が上昇するという問題です。

一万年で一℃上昇した地球の温度は、現在では一〇年で〇・三℃のスピードで上昇し、さらに加速されています。そしてこのまま進めば二一世紀の終わりには平均気温が二

55

50

45

五・八℃上昇すると予測されています。これはたいへんな変化です。氷河や南極の氷が融けて海面が上昇し、土地を奪われ追い出される多数の環境難民が出るでしょう。

もつと大きな問題は気候の激変です。台風、ハリケーンが猛威をふるい、洪水の被害が大きくなるでしょう。病害虫の害による食糧不足やマラリアなどの伝染病が広がり、地球がどんどん住みにくくなっていくでしょう。

ではなぜ二酸化炭素の濃度が上がるのでしょうか。一八世紀に人間が石炭を使いだし、さらに石油、天然ガスを使い、そこに含まれているすべての炭素を二酸化炭素に変えて大気中に捨てているからです。

ところで、人間が発生させている二酸化炭素の由来をみると、二つに大別できます。

一つは、化石燃料をエネルギー（電気、動力、熱）として利用するとき必ず排出されるもので、これは「エネルギー由来のごみ」です。もう一つは、紙、衣類、食物、プラスチックといった有機化合物を利用したのち、ごみとして捨てたときに発生するもので、いわば「ごみ由来のごみ」

75

です。この二つのごみは、もとをたどれば地球にある資源です。その量は、第一の「エネルギー由来のごみ」が圧倒的に多いのですが、第二の「ごみ由来のごみ」も、日本で

65

は5%以上を占めると推定されます。エネルギーの利用も
ごみ処理も、私たちがよりよい生活をするうえで必要なも
のですから、人間のよりよい「生」への欲望がその正反対
の「死」を招くという矛盾をかかえているのです。

温暖化とならぶ大きな問題が、フロンによるオゾン層の
破壊です。

フロンは人体にはまったく無害な気体ですが、これを大
気中に捨てる、どこの国に住んでいようと世界中のすべ
ての人間に取り返しをつかない悪影響を与えてしまいま
す。この点で二酸化炭素と似ています。

太陽から地球に放射されている電磁波には、生きものに
有害なX線や紫外線が含まれていますが、地球をおおつて
いるオゾン層がこれを吸収し地上を保護してくれているの
です。オゾン層が破壊されると紫外線が強くなり、これが
生物の染色体の遺伝子を破壊してしまいます。その結果、
植物ではたとえばイネの種を蒔いても収穫ができないとい
うことが起こり、動物では奇形が増え人間にも同じことが
起こります。

フロンは身近なところでは、冷蔵庫やエアコンに使われ
ています。これらがごみになったとき、埋め立て処分や破
碎して金属を回収リサイクルするこれまでの方法では、フ

80

85

90

100

ロンは大気中に放出されてしまいます。二〇〇五年に使用
は全廃されましたが、オゾン層に達するまでに二〇年くら
いかかりますので、そのあいだにオゾン層のフロンは増え
つづけるでしょう。また、たとえば現在使っている冷蔵庫
がごみになったとき、日本では回収が義務づけられていま
すが、それでもフロンの一部は大気中に放出されてしま
いますし、世界全体でみると回収される量のほうが少ないで
しょう。

オゾン層が回復するまでに、あと五〇年くらいは必要と
いわれています。

このように、私たちの日常生活から毎日出されているご
みが、私たちの住んでいる地域とか、日本という国に影響
を与えるだけではなくて、地球全体に、人類全体に、同時
に共通の災害を与えるようになってきているのです。

こういう状況はいまだかつてないことです。いわゆる公
害問題はその地域に住んでいる人の健康に被害を与えまし
たが、その原因はその地域のなかにありました。

ところが、二酸化炭素やフロンは、限られた地域ではな
くて、世界全体に影響を与えます。硫酸化物や窒素酸化
物の場合は、煙突を高くして拡散させ空気で薄めることが
できますが、二酸化炭素やフロンは薄めてもなんにもなり

110

115

120

ません。二酸化炭素は、私たちが吐く息のなかにも含まれていますし、フロンは人体に有害なものではないからです。問題となるのは、地球環境という入れもののなかにたまっている総量なのです。

125

日頃、私たちはなんとなく、地球は広いしまだ十分大きいと思っています。ジェット機でもアメリカまで約一〇時間、世界一周には二四時間以上かかるわけですから、なんといっても広い。また、晴れた日には東京や大阪のような大都市でも空は澄んで青く見えるし、都会の川にもサケが産卵にのぼってきたとか、魚が獲れるようになったというニュースが聞かれるように、水や空気がきれいになってきています。地球はまだまだ広いし、公害防止技術の進歩によつて危機を脱しつつあるのではないかと感じている人も多いと思います。

135

ところが、目には見えないけれども、人類が地球で生きつづけることを困難にするような事態が一方で着々と進行しているのが現実です。広いと思っていた地球がじつは狭くなつていて、地球環境は有限で、ごみを捨てるにはかぎりがあつて、このことを私たちは真剣に考えなければならぬといときを迎えているのです。

140

資源はまだすぐにはなくなりません。とくに日本は経済

力がありますから、必要な資源を買ってくるのができません。ところが、大気や水といった地球の環境にはもうそんなに余裕がない、地球環境はどんなに経済力があつても手に入れることはできないのです。

145

(八太昭道『新版 ごみから地球を考える』岩波書店)

ところで、人類が生まれたのは地球の歴史からいえばわずかに一〇〇〇分の一という、ごく最近です。はじめのうちには、人類の活動は地球にとっては何の影響もない小さなできごとにしからずませんでした。森の木を切り倒して農業をはじめたのも、その木を燃やして食事をつくったのも自然破壊にはちがいません。しかしその規模は地球が自然に回復する能力を越えなかつたのです。

しかし最近がちがいます。とくに一九世紀末以来、人類が急激に増えたばかりではなくて、人類の活動も拡大して地球の回復能力を越えてしまいました。つまり人類の活動は地球全体に影響するようになっていくのです。地球にある空気や水は、地球がいつペンだけつくつてくれたものであることを人類は忘れてしまったのでしようか。いや、こういうことがわかつたのは一〇年前か二〇年前ほどの最近ですから、人類はこういう事実を知らないまま活動を拡大してきたのです。

減っている熱帯雨林の話や、酸性雨に痛めつけられているヨーロッパの森の話は、聞いたことがあるでしょう。いや、森にはかぎりません。鉱物資源でも水でも、人類はいまや手に入る自然を利用したいだけ利用するようになって

います。逆にいえば、こうして自然を利用するようになったから、人類のいまの文化はあるのです。

しかし、ここには私たちが考えなければならぬむずかしい問題があるのです。それは、人類が手が届く財産を勝手に利用したいだけ利用しようとする時代がいつまでもつづいていていいのだろうかという問題です。

一つは資源そのものを使いつくしてしまうかもしれないという問題です。そしてもう一つは人類が利用したために副産物やゴミが出て、それが地球に影響するかもしれないという問題です。

はじめの問題ではたとえば化石燃料があります。私たちはエネルギーを何からつくりだしているのでしょうか。石油も石炭も天然ガスも、昔の生きものの死体が地球のなかで気が遠くなるほど長いあいだかかって変化していつつくられたものです。これらのエネルギー源が化石燃料といわれるのはこのせいです。人類は、長いあいだかかってできたこのエネルギー源をたいへんな勢いで使っているのです。つまり、つくられた時間よりもはるかに短い時間のうちに消費しているのです。

副産物やゴミの問題も深刻です。たとえば、人類がエネルギーを使うにつれて二酸化炭素が増えてくるといって問題

があります。自動車や飛行機や船のエンジンが動いたら、かならず二酸化炭素が出ます。工場からも発電所からも出ます。ストーブを焚^たいても出ます。じつは地球にやさしいはずの電気自動車さえ、充電するための電気をつくる発電所では大量の二酸化炭素を出しているのです。昔は大量にあつて、地球がようやく海や岩のなかにとりこんだおかげで減った二酸化炭素が、こんどは人類のせい、また増えはじめているのです。

地球の温暖化という話を聞いたことがあるでしょう。は50
きだされた二酸化炭素は空気のなかでは重いガスですから、地球をかけ布団のようにおおってしまします。この眼に見えない透明なかけ布団が、温室のガラスの役目をして、太陽から来た熱を閉じこめてしまうので地球の温度が上がるのではないかといわれているのです。このため、地球温暖化は英語では温室効果といわれているのです。

こうして地球の温度が上がれば世界の気候が変わるばかりではなくて、氷河が溶けて海の水が増え、海面が上がって海ぎわの大都会が水没するのではないかもいわれています。前に書いたように、金星の温度が上がってしまったのは二酸化炭素の布団のせいです。私たちが二酸化炭素をさらに出しつづけるとすれば、やがて地球が金星のように

ならないともかぎりません。

人類が文化を楽しむためにでてくる副産物は、二酸化炭素だけではありません。エネルギーを使うとかならず出てくる熱の問題もあります。また世界の原子力発電所から出るゴミも、年々増えつづけています。これから何十万年にもわたって放射線や熱を出しつづけるこのゴミをどうするのか、これも大きな問題です。

フロンガスの話を聞いたことがあるでしょう。工場や、また家庭でも冷房や冷蔵庫や自動車やスプレーに使われているフロンの、B

という問題です。じつはフロンは大発明でした。工場で半導体をきれいにするためや冷房機の冷媒としては、フロンほど性能がよくて安いものはなかったのです。さわっても吸いこんでも身体に大きな悪影響があるわけではなかったもので、人体に無害だとさえいわれた新製品だったのです。

以前はよく使われたのに、騒がれて使用禁止になったPCBという絶縁油も同じでした。電気の変圧器に入れる電気絶縁のための油としては、PCBほど安くて性能がよい製品はなかったのです。人体にふれたときだけが猛毒だったのです。そして、すでにつくられてしまったPCBは、いまでは環境汚染を引き起こしています。

ここにはむずかしい問題があります。いままでよりさらに文化的な生活をいとなむために人類はこうして資源を使い、副産物やゴミを出しながらつきつぎに新製品をつくり利用してきました。自分たちの都合だけで、いわば狭い意味の文化を追いもとめてきたのです。このときに科学や技術は錦⑧にしきみはたの御旗でした。つまり科学や技術は無条件で正しいものだったのです。

90

しかし、地球全体とか地球の将来についても考えなければならぬ時代がきたのではないか、それを考えることが、いわばひろい意味での文化なのではないだろうか、ということなのです。科学や技術は有力な手段ではありませんが、こういった問題は科学や技術が自分で考えてくれるわけではありませぬし、科学者や技術者だけが考えればいい問題ではありませぬ。地球に住むみなさん一人一人が考えるべき問題なのです。

95

そして、地球を考えるときには、空気や水のことだけを考えていてはいけません。前に地球は内部にある核から地表、そして大気まで一つながりのものとしてつくられた、つまり、一つの家族なのだという話をしました。地球は一つの運命共同体なのです。地球の問題を考えるときには、地球全体を考える必要があるのです。

100

地球は「人類の財産」です。いや地球は「地球の財産」だといふべきかもしれません。この財産を山分けして都合のいいように使いつくしてしまうのか、それとも人類や地球の資産として未来のために生かせるのか、そういった人類の知恵が試されているのが地球の将来なのです。

地球のことには限りません。私たち人類の文化がこの勢いで発達していったら、月や宇宙の資源や環境も、いずれ同じ問題に直面する時代がくるにちがいないのです。

110

(島村英紀『地球がわかる50話』岩波書店)

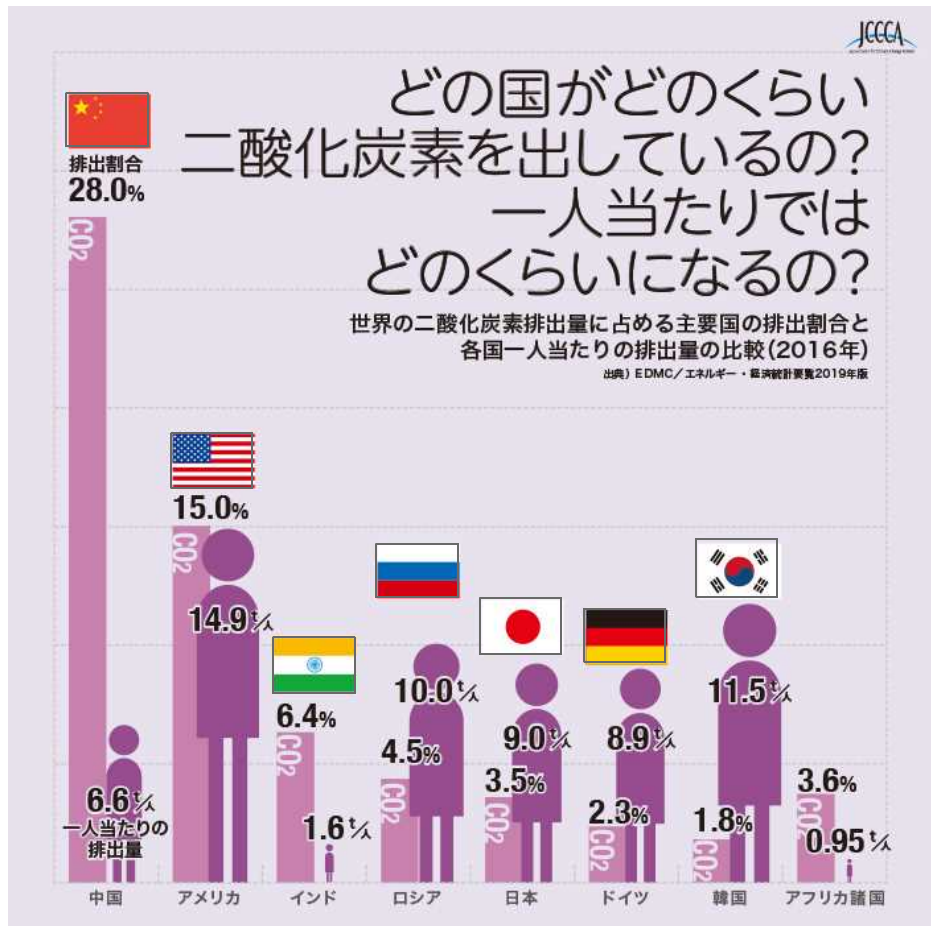
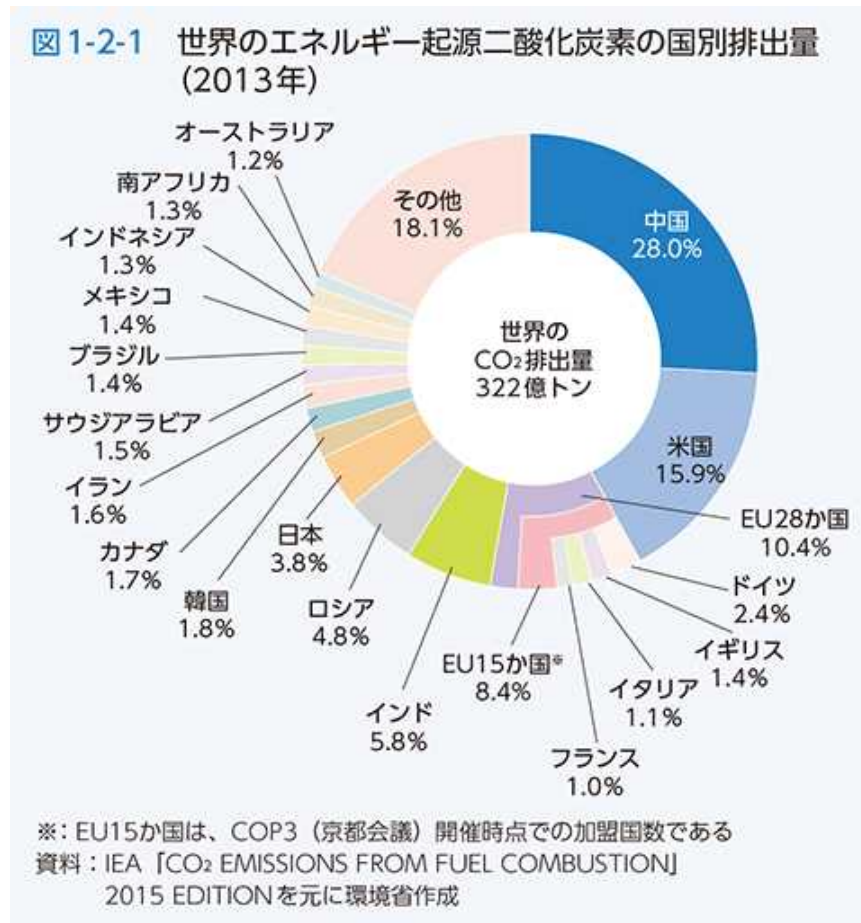


図1 全国地球温暖化防止活動推進センターHPより



グラフ1 環境省作成データより

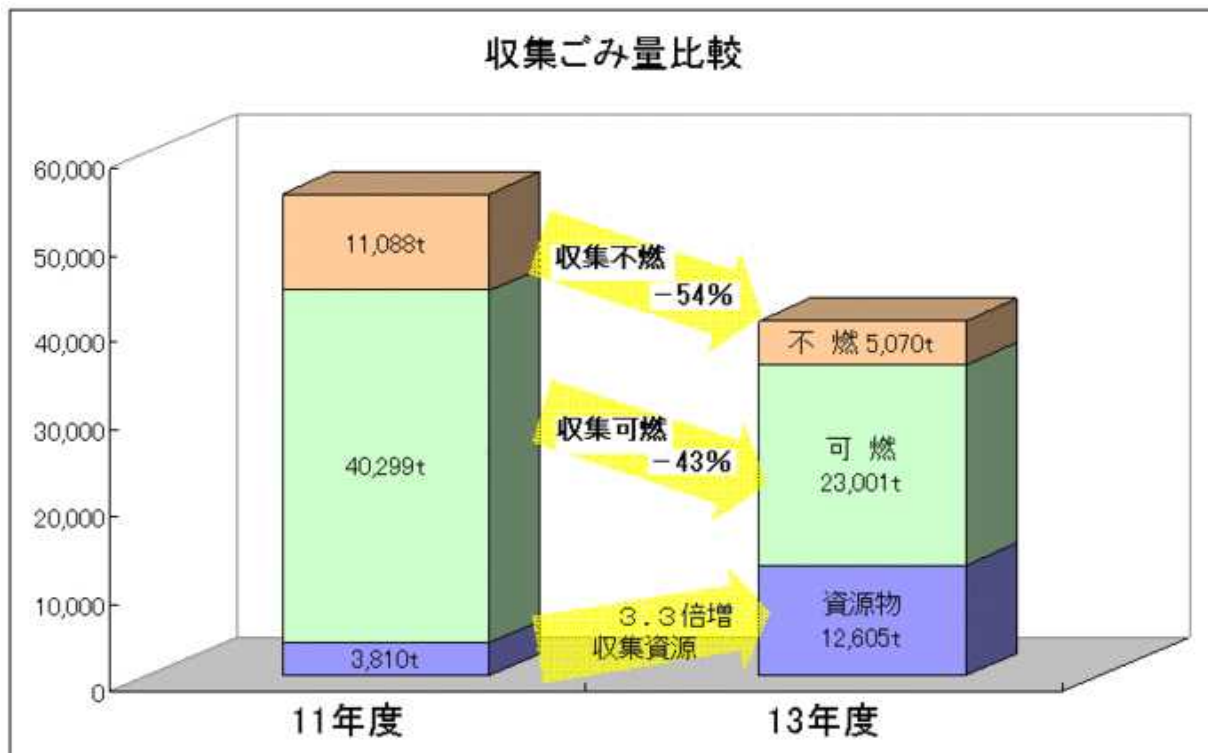


表1 日野市公式HPより

項目	ごみ改革前	ごみ改革後
ごみ・資源物の排出方法	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみはグリーンのだストボックスへ、不燃ごみはオレンジのだストボックスへ排出 ・有害ごみは電気店前等に置いてある専用容器に排出 ・資源物は、資源物ステーション(びんのみだストボックス脇で途中から)の回収容器に排出。回収は月2回(一部毎週)420ステーション ・だストボックスは可燃30世帯、不燃15世帯に一個(道路狭隘地域で一部袋収集)市内7200個設置(可燃4074ヶ所 不燃2465ヶ所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ・不燃ごみは有料指定袋にて各戸で排出(集合住宅等は共同排出場所)・有害・危険ごみは、不燃ごみの日に、不要な袋に入れて排出 ・資源物も原則各戸で排出(集合住宅等は共同排出場所) ・びん・缶、ペットボトルはバケツ等に入れてバラで排出 ・古紙類はひもで縛って排出 ・古布類、トレー類は不要な袋で排出 ・戸別収集所 約4万ヶ所
収集回数	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ:週3回(4トンクレーン付パッカー19台) ・不燃ごみ:週2回(4トンクレーン付パッカー7台) ・資源物:月2回(平ボディ等19台) 	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ:週2回(2トンプレスパッカー21台) ・不燃ごみ:週1回(2トンプレスパッカー10台) ・資源物:隔週(びん6台,その他27台)
資源物回収品目	<ul style="list-style-type: none"> ・古紙類(新聞、雑誌・雑紙類、牛乳パック類)、古着、古布類、びん、缶類、ペットボトル、トレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・左に加えてトレー類(硬質プラボトル)を回収
排出場所管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、町内会、集合住宅単位で管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として各家庭にて管理
事業所ごみの収集	<ul style="list-style-type: none"> ・許可業者収集及び持ち込み(直接搬入)を原則とする ・家庭ごみと混入してだストボックスに排出される 	<ul style="list-style-type: none"> ・許可業者収集及び持ち込み(直接搬入)を原則とする ・少量排出事業所が公共収集に排出する場合は、事業系有料指定袋を用いる

※だストボックスとは鉄製のコンテナのことで、適当な間隔をとって歩道脇に設置されており、住民は最寄りのだストボックスに24時間いつでもゴミを出すことができました。

※各戸で排出とは各世帯が自家の玄関先にごみをだしておく仕組み。

問一 ———— 線①とありますが、これに関連した図1と

グラフ1の説明として、誤っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、図1で一人当たりの二酸化炭素排出量が最も多い国はアメリカである。
- イ、グラフ1で中国は二酸化炭素排出量が国別ではトップだが、図1の一人当たりの排出量は日本よりも少ない。
- ウ、グラフ1で中国は世界の二酸化炭素排出量の四分の一以上を占めている。
- エ、グラフ1で世界のエネルギー起源二酸化炭素排出量を国別で見ると、日本は七番目に多い。

問二 A に入る文を次から一つ選び、記号で答え

なさい。

- ア、人類の財産とも言うべき化石燃料を永遠に失うことになる
- イ、長い地球の歴史の中で、また同じ過ちを繰り返してしまう
- ウ、地球環境は破壊し、人類は持続的に発展してゆくことができなくなる
- エ、さらに一万年が経過するごとに、1℃ずつ地球の気温が上昇する

問三 ———— 線②とありますが、これを言い換えている

文を 文章II から探し、解答欄にあうように三十字以内で抜き出して答えなさい。

人間は化石燃料を(

)

問四 ——— 線③とありますが、次の対話は、発展途上

国における環境問題について話し合ったものです。

二か所ある（ 1 ）と（ 2 ）に入る言葉を

文章Ⅰ

からそれぞれ漢字で抜き出して答えなさい。

Xくん 発展途上国は、国の発達を優先して、環境を

守ることを後回しにすることがあると聞いた

ことがあるよ。

Yさん 工場や車の交通が集中している都市の大気汚

染は、かつての日本の（ 1 ）と似ている

し、酸性雨の被害や化学物質汚染も進んで

いるというニュースを見たわ。

Xくん （ 1 ）以外に発展途上国における問題は

他にもあるのかな。

Yさん 人口増加も大きな問題だと授業で習ったわ。

Xくん なぜ人口増加が環境問題に関係するの？

Yさん 人口が増えれば、それだけ食べ物や飲み水が

必要になって、そのために森を切り開いて、

畑にしたり家畜を飼ったりしなければいけな

いよね。さらに人口が増えた分だけ、エネル

ギーが必要で、石炭や石油を多く使うように

なるんだ。そうすると、二酸化炭素が増えて

地球の温暖化につながるんだよ。

Xくん それは発展途上国だけの問題なのかな？

Yさん 人口の増え方の激しい地域は、アジアやア

フリカなどの、あまり（ 2 ）がない国ばか

りらしいよ。日本などの（ 2 ）がある国

では、今でもあまり人口は増えていないよね。

特に人口の増加が激しい発展途上国の人々

が、先進国の人々と同じように豊かなくらし

をするためには、たくさんの食糧やエネルギー

ーが必要になるので、環境問題はなかなか解

決しないんだ。地球全体で考えていかなけれ

ばならない問題だよ。

問五 ——— 線④とありますが、この言葉には筆者のどのような思いが込められていますか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、皮肉
- イ、断念
- ウ、悲嘆
- エ、賞賛

問六 ——— 線⑤とありますが、なぜ二酸化炭素が増加すると地球の温度が上昇するのですか。解答欄にあうように文章Ⅱの言葉を用いて五十字以内で答えなさい。

（ ）と考えられているから。

問七 ——— 線⑥とありますが、これはどういうことですか。その説明として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、人類はいつでもお金で物事を解決しようとし、温暖化の進行も豊かな経済力で何とかしようとしているが、それにも限界があり、いつかは尽きてしまふということ。
- イ、人類は自分たちが無意識に続けてきた生活習慣を反省しないばかりか、さらに開発を繰り返し、ますます傲慢になっていくので、その欲望には際限がないということ。
- ウ、人類は利便性を求めるあまり大量生産、大量消費をやめられず、それが原因で環境破壊を引き起こし、地球で生き続けることを困難にしているということ。
- エ、人類は物資やエネルギーの大量消費をやめ、人の心や人情などに価値観を見出すべきで、人間の心が変わって初めて問題は解決するのに、その見通しがないということ。

問八 ———— 線⑦「ごみ」に関連した次の問いに答えなさい。

東京都日野市では、一九九七年に多摩地区で市民一人あたりの不燃ごみ量とリサイクル率がワースト一を記録したことをきっかけに、二〇〇〇年以降「ごみ改革」と銘打って様々な施策(表1)を行い、グラフ2のような結果になった。日野市が行ったごみ改革で、効果を生んだ取り組みはどのようなものだったかを四十字以上五十字以内で自分で考えて書きなさい。

問十 ———— 線⑧とありますが、ここで使われている意味に一番近い四字熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、異口同音
- イ、呉越同舟
- ウ、公明正大
- エ、大義名分

問十一 国語の授業でこの二つの文章を読んだ後、「環境問題に関して自分ができること」というテーマで

自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二〇〇字以内で書きなさい。なお一マス目から書き始めること。

問九

B

 に入る文を

文章I

 の言葉を使って、

自分で考えて書きなさい。

